

CODE 海外災害援助市民センター
2012 年度 事業報告

【海外災害地への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト(ぶどう畑再生支援事業)
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 531 世帯(2012 年 3 月末現在)。
実施内容	<p>2003 年から上記 4 村でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 531 世帯が融資を受けた(2013 年 3 月末現在)。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。</p> <p>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、主要な市場であったパキスタンへの輸出が 2010 年頃から禁止されてしまい、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度中には有力な取引先候補が見つからなかったため 2013 年度に持ち越すこととなった。</p> <p>2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。その際、東日本大震災被災地を訪れ、互いの被災状況や復興について話し合う機会を持った。また、シンポジウム参加者の関係で、フェアトレードを行っている方につながったことから、ミールバチャコットの有機ぶどうを日本で扱っていただける可能性が出てきた。</p>

事業名	中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	<p>老年活動センター建設</p> <p>当初の予定であった「総合活動センター」(医療施設等を含む)は中国政府が建設することになったため、村の方々と協議の上計画を変更し、2010 年度に「老年活動センター」の建設が決定した。2010 年 11 月には調印式に芹田代表理事が出席、2011 年 6 月着工、同 9 月に完成した。</p> <p>場所は村の中心部 4 組の森に囲まれた静かな所で、駐車スペースなどを含む総面積は約 1000 平米、センターの築面積は約 380 平米である。釘を一本も使わない伝統軸組み構法で建てられた木造家屋で耐震性も考慮されている。中国の伝統様式である三合院(中</p>

	<p>庭を中心にしたコの字型のデザイン)になっており、中庭は高齢者の語らいの場や女性たちの踊りの練習にも使われる。内部は娯楽室、休憩室、子ども向け図書室、村民の会議室、震災の記録や伝統構法などを見学できる展示室などが今後設けられる。また、緊急時には避難所としても機能する。</p> <p>2011年9月には完成式(鍵の引き渡し式)も行われ、芹田代表理事やコープこうべの秦理事らにも参加いただき、盛大に式典が催された。ニス塗りも終わり、現在は住民自ら「農家楽(中国式アグリツーリズム)」として活用し、雇用も少し生まれている。一方で高齢者などの村民が麻雀などの娯楽の場として利用している。</p> <p>2012年2月に開催した10周年記念シンポジウムのゲストとして光明村の彭廷国医師が2度目の来日を果たした。セヶ浜、気仙沼、釜石、大槌などを訪れ東日本大震災被災者や現在も支援に携っている方々と交流を重ねた。</p> <p>また、3月には上記シンポジウムとともに開催した「若者ポスターセッション」(救援プロジェクトの企画コンペ)で優勝した神戸大学の学生を被災地に案内し、被害や復興の様子について学んでいただいた。</p>
--	--

事業名	ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日～継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	<p>①CODE 海外研究員・クワウテモックさんの派遣(2010年度～2011年度)</p> <p>地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワウテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティFM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。</p> <p>②ACSIS への支援(2010年度～2012年度)</p> <p>2010年4月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った(50万円)。その後、ACSIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロファイナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011年1月、約128万円(約15,200ドル)を送金し、40人の女性に100～500米ドルが融資された。2012年8月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の7割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となっている。</p>

③「日本ハイチ協会」拠点支援(2012 年度～)

同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル(年間 5000 ドル。約 130 万円)を送金した。

④「GEDDH」農業技術学校支援(2012 年度～)

ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会)と2010 年に出会い、シスターの設立した NGO「GEDDH」の農業を支援する話が出ていた。しかし 2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校の建設を支援することが決定した。図面や予算、運営方法の調整を続けている。

⑤シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい(2012 年度)

2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。

《参考》CODE 訪問歴

クワウテモックさん

第一次: 2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日

第二次: 2010 年 3 月 30 日～5 月 15 日

第三次: 2010 年 6 月 17 日～9 月 5 日

第四次: 2010 年 10 月 1 日～12 月 20 日

第五次: 2011 年 1 月 9 日～3 月 31 日

2010 年 8-9 月: 野崎理事

2012 年 8 月: 芹田代表、岡本

事業名	中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	2008 年の四川省地震以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」を通して直後より実態把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会 (Snowland Service Group、SSG)」とのネットワークを築いた。

	<p>並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、アラフマイアニ・フェイスルさん※とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで 2011 年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることによって生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。</p> <p>2012 年 7 月の第 3 次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、現在、実施に向けて調整している。</p> <p>※アラフマイアニ・フェイスルさん</p> <p>インドネシア・ジョグジャカルタ特別州在住のアーティスト。1980 年代よりアジア、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカなどでパフォーマンス・アートを主とする作品を発表、数多くの国際的芸術祭に招待される。アートを利用したコミュニティ開発や復興支援、異文化理解活動にも取り組み、2006 年 5 月のジャワ島中部地震後、イスラーム寄宿学校において環境教育や代替燃料づくり活動を行う。最近ではアルゼンチン、中国、オーストラリアなどにおいて、コミュニティの課題を人々自身が発見して解決を図ったりアドボカシーを行うワークショップ型アート「フラッグ・プロジェクト」のファシリテーターとして活躍中。2010 年 4 月の青海省地震後、被災地玉樹に入って調査を行い僧院とネットワークを築く。インドネシア・ジャワ島中部地震のカウンターパートを通じて CODE と出会い、神戸の事務局を訪問して下さった。</p>
--	--

事業名	インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006 年 5 月 27 日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援(同 4 月施工完了)。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代をプールして事業向け融資を実施するなどである。</p> <p>2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、2010、2011 年に続き 2012 年度も、CODE 正会員である神戸学院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に岡本が同行させていただき、情報収集を行った。</p>

事業名	インドネシア・ムラピ火山救援プロジェクト
実施日時	2010年12月10日～2013年3月31日
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	この火山噴火で被害を受けたジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州は2006年5月のジャワ島中部地震の被災地でもあり、カウンターパートのエコ・プラウトさんやエコさんを通して知り合ったアーティストのアラフマイアニ・フェイスルさんと連絡をとって情報収集にあたった。現地団体を通じた支援を模索するも、メールのみでのやり取りでは困難であり、最終的に、同地でコミュニティラジオを通じた防災活動を行うエフエムわいわい(神戸市・CODE 吉富理事が代表理事を務める)に募金を託し、本事業は終了した。

事業名	チリ地震・津波救援プロジェクト
実施日時	2010年2月27日～継続中
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	特定非営利活動法人災害人道医療支援会(HuMA・東京都)への支援を決定したものの、チリ政府からの救援依頼がなかったため、全額保留となっている。現在は、チリ地震・津波と東日本大震災の被災者の交流事業の実現に向け、招聘者を調整している。

事業名	東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011年4月1日から半年間同NGOにスタッフ二人を出向させた。 また、金沢大学と連携し、2012年3月末に中国四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日にはCODE関係者などと交流会を行った。2013年2月には10周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト3名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者どうしの交流および情報交換を行った。

【人材育成事業】

事業名	世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	2012年度より吉椿雅道を事務局次長として内外への発信、および事務局体制の充実化を図った。アルバイト上野智彦の人件費と研修費を計上した。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	「CODE 寺子屋事業」の項を参照。
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、京都大学、神戸大学、神戸学院大学、兵庫県立大学、関西学院大学、神戸松蔭女子学院大学、舞子高校などの学生など 10 数名。
実施内容	2012年度の本事業は「CODE 寺子屋～今、若者に伝える、17年間の救援思想～」と重複した。若者を中心に、村井理事ほか担当者より、CODE が行ってきた復興支援のケーススタディを学んだ。詳細は「CODE 寺子屋事業」の項を参照。

事業名	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	Reliefweb に掲載されている情報を集め、機関誌やプレゼンテーションなどに利用して発信したが、World Voice への全文掲載は行わなかった。

【ネットワーク構築事業】

事業名	《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	下記の通り
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	約 40 名
実施内容	①「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、5年目となる 2012年度も継続して神

	<p>戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記の通り実施した。</p> <p>《内容》</p> <p>第1回(4/12・木)ガイダンス(浅野、村井)</p> <p>第2回(4/19・木)CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(吉椿雅道)</p> <p>第3回(4/26・木)東日本大震災とジェンダー(斉藤容子)</p> <p>第4回(5/10・木)東日本大震災と足湯ボランティア(藤室玲治)</p> <p>第5回(5/17・木)ハイチ地震から学ぶ(村井)</p> <p>第6回(5/24・木)アフガニスタンと開発援助(村井)</p> <p>第7回(5/31・木) 災害復興から持続可能な開発プロジェクト (インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み) (岡本千明)</p> <p>第8回(6/7・木) 東日本大震災の教訓(村井)</p> <p>第9回(6/14・木) 災害時における地域力(織田峰彦)</p> <p>第10回(6/21・木) 災害復興と行政の役割(斉藤富雄)</p> <p>第11回(6/28・木) 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠)</p> <p>第12回(7/5・木) 農業と持続可能な社会(本野一郎)</p> <p>第13回(7/12・木) 減災サイクルともう一つの社会(村井)</p> <p>第14回(7/19・木) 振り返り(浅野・村井)</p> <p>第15回(7/21・土) まとめ(浅野、村井)</p> <p>②その他</p> <p>9/10～14 学生インターン2名を5日間受け入れた</p> <p>8/30～9/6 浅野壽夫教授担当「インドネシア海外研修」に同行(岡本)</p> <p>10/12 同「インドネシア海外研修」事後研修に参加(岡本)</p>
--	---

事業名	《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会からの講師派遣
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>CODE が正会員となっている関西 NGO 協議会(大阪市)の担当する下記の大学の講義において、同団体からの依頼に基づき講師を務めた。</p> <p>9/18 帝塚山学院大学集中講義(吉椿雅道)</p> <p>11/19 関西学院大学講義(同上)</p> <p>11/26 関西学院大学講義(同上)</p>

事業名	《関係機関からの受託事業》 JICA の支援委員委嘱受諾
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	JICA「アフリカの角干ばつ対応事業」のための国内支援委員会における「コミュニティ防災」分野の委員として、村井理事・事務局長が委嘱を受け参加した(2012 年度で終了)。 5/8 アフリカの角干ばつ対応事業国内支援委員会(村井理事)

事業名	《関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加》関西 NGO 協議会理事会に参加
実施日時	下記の通り
実施場所	関西 NGO 協議会事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	CODE が加盟する関西 NGO 協議会の理事会に、村井理事が参加した。(4 月 25 日、5 月 26 日、9 月 11 日、10 月 25 日、12 月 22 日、2 月 8 日、3 月 22 日)

事業名	その他
実施日時	随時
実施場所	日本全国
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>①NGO-JICA 協議会 関西 NGO 協議会からの要請により参加した。 5/11 関西 NGO 協議会より「JICA-NGO 協議会」のコーディネーターに関する説明(村井理事) 9/27 NGO・JICA 協議会コーディネーター会議(村井理事) 10/19 NGO・JICA 協議会 in 宮島(村井理事) 12/19 NGO・JICA 協議会 in 東京(村井理事) 2/18 NGO・JICA コーディネーター会議(村井理事) 3/21 NGO・JICA 協議会 in 東京(村井理事)</p> <p>②その他 国内外の人、団体とネットワークを築くため、シンポジウムなどに参加した。 6/25 テルネットフォーラム実行委員会(吉椿) 6/29 第 16 回安全・安心社会システム研究会(神戸学院大学)(村井理事)</p>

	8/10～13 中国生命關懷協会シンポジウム(香港)に参加(吉椿) 11/5 アジアパシフィックアライアンスシンポ(村井理事) 11/17 神戸大学オープンゼミ参加(吉椿) 11/18 市民防災復興シンポジウム参加(吉椿) 1/18 国際防災協力研究会に出席(吉椿) 1/25 国際防災協力研究会に出席(村井理事)
--	--

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>2012年度より若者を対象とした「CODE 寺子屋若者編～今、若者に伝える、17年間の救援思想～」を実施した。村井理事や担当者から CODE が過去に行ってきた救援活動を振り返り、そこから理念や支援内容について学んだ。</p> <p>《内容》</p> <p>第1回(4/22) 阪神・淡路大震災</p> <p>第2回(5/13) サハリン地震、雲南省地震、朝鮮飢餓</p> <p>第3回(6/10) ホンジュラスハリケーン、パプアニューギニア干ばつ・地震津波、コロンビア地震、トルコ地震</p> <p>第4回(7/1) 台湾集集地震、エルサルバドル地震、インド西部地震</p> <p>第5回(10/21) メキシコハリケーン、アルジェリア地震、バム地震</p> <p>第6回(11/25) アフガニスタン</p> <p>特別編(3/12) 10周年記念シンポジウム基調講演</p>

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2012年度は、過去の寄付者を含め約 2000 通に機関誌を送ることで会員数の増加を試みた(通常は 500 通程度)。結果、賛助会員数は 2011 年度の約 60 名・団体(約 24 万円)から倍増し、約 130 名・団体(約 50 万円)となった。また、SNS 等のネット媒体による情報発信を開始し、これらを使ったネットワークづくりを模索した。</p>

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>①当団体主催の報告会は以下の通り。</p> <p>12/1 青海省地震報告会(参加者約 10 名)</p> <p>1/20 ハイチ地震報告会(参加者約 30 名)</p> <p>②他団体からの講師依頼としては以下のようなものがあった。</p> <p>4/12 大規模災害における市民社会の連携を考える世銀・JICA パブリックセミナー”にパネラー出席(村井理事)</p> <p>5/8 国際防災協力体制の構築に関する研究会(村井理事)</p> <p>7/17 神戸大学講義「アジアにおける防災国際協力の推進」(吉椿)</p> <p>9/5 名古屋円卓会議(日本福祉大学)に参加(吉椿)</p> <p>9/23 学生未来フォーラムで講師(吉椿)</p> <p>10/1 兵庫県立舞子高校環境防災科で講義(岡本)</p> <p>10/17 関西学院大学国際学部で講義(村井理事)</p> <p>11/13 兵庫県立大学講義(吉椿)</p> <p>12/4 JICA アンデス地域災害医療マネジメントコースで講演(村井理事)</p> <p>12/9 コープこうべで講演(村井理事)</p> <p>12/13 コープこうべ第 4 地区「平和の集い」で講演(吉椿)</p> <p>12/14 平成 24 年度 21 世紀文明研究セミナーで講演(吉椿)</p> <p>1/16 龍谷大学で講義(村井理事)</p> <p>神戸市立楠高校で講義(吉椿)</p> <p>1/18 神戸市立楠高校で講義(吉椿)</p> <p>1/24 神戸市立楠高校で講義(吉椿)</p> <p>2/9 ひょうご防災リーダー研修会で講義(村井理事)</p>

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地約 2000 人／団体 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>機関誌を 4 月、8 月、12 月の計 3 回発行した。今年度は会員の拡大のために過去の寄付者を含めて約 2000 通を送付した。インターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用しての情報発信を開始。また昨年に引き続き HP、メーリングリストに定期的に情報を流している。</p>

【その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	CODE AID 設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2011年10月度理事会でCODE AIDを立ち上げることを決定したが、2012年度になり認定NPO法人の取得には最低2年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。</p> <p>なお、理事候補は浅野壽夫氏(神戸学院大学教授)、大森保美氏(株式会社大森工業社長)、林晃史氏(弁護士)、芹田健太郎現CODE代表理事(神戸大学名誉教授)の4名、監事候補は安井一浩氏(公認会計士・神戸学院大学准教授)である。</p>

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>本奨学金制度は、2005年度にはじまり2011年度で8年目となった。初年度の該当者で元CODEスタッフ斉藤容子さんの留学に際する壮行会にて集まった資金53万円を元手として、全額が奨学金として手渡された。以後の該当者はなかったため実施していない。なお、斉藤さんの返済により、2012年度末の基金残高は269,000円となっている。</p>

事業名	CODE 設立10周年記念事業について
実施日時	2013年2月2日
実施場所	兵庫県公館
受益対象者の範囲及び予定人数	参加者128名(スタッフ含む)
実施内容	<p>2002年12月のNPO法人登録から10周年を迎えるのを機に、2013年2月2日にCODE10周年記念シンポジウム「寄り添いからつながりへ」を開催した。また、その報告書500部が3月31日に完成した(2012年度で事業終了)。</p> <p>なお、プログラムは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基調講演 「寄り添いからつながりへ 市民による世界の被災地支援復興」 CODE代表理事 芹田健太郎 パネルディスカッション「支援と受援のあり方」

コーディネーター CODE 副代表理事 室崎益輝
コメンテーター CODE 理事・事務局長(当時) 村井雅清
パネリスト アフガニスタン NGO「SADO」 ルトフ・ラフマン
中国・四川 北川県光明村医師 彭廷国
ハイチ NGO「GEDDH」 ジャン・クロード・レフェルブ

3. 若者ポスターセッション「海外災害支援～次世代からの提案」

テーマ:「〇〇で災害が起きたら、復興に向けて

どのような救援プロジェクトを行うか？」

大学生を中心に若者 9 チームが参加。